

## ミュージザ川崎シンフォニーホール

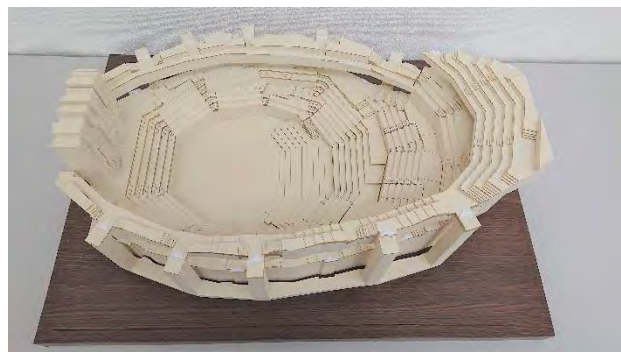
### 「触る模型」

#### 「触る模型」とは

ミュージザ川崎シンフォニーホールには、身体的・精神的困難をかかえるお客様など様々なお客様がご来場されます。「すべての人が楽しめるホールの環境づくり」というミュージザの基本方針のひとつを基に、あらゆるお客様にミュージザの魅力を伝え、感じてもらう事を目指して制作しました。

視覚障害のある方が実際に模型を「触る」ことを主な目的とし、「触る」ことでミュージザの特徴的なスパイラル構造を体感し、会場で客席に座る・音楽を聞くだけでは得られない臨場感を味わうことができます。また、様々な困難により文字や図を認知しにくい方にとっても立体模型を見て・触れることでホールの様子を把握する手助けとなります。

「情報保障」「鑑賞サポート」を目的とした模型制作は日本のホールでも類がなく、画期的な試みです。音楽を聴くという体験にとどまらず、空間情報を共有する体験が加わることで、ミュージザへご来場されるお客様の満足度向上と、「またホールへ行きたい」と感じていただくきっかけになれば幸いです。



#### 「触る模型」制作にあたって

舞台美術家が持っている“模型製作スキル”を社会に寄与する活動に活かしたい。その様な思いで、日本舞台美術家協会の有志が集い、6年前に『触る模型』委員会を立ち上げました。活動当初「視覚障害＝日常生活を送る上で社会の中にある視覚的障害」が何かもわからず、それを知るために受講した講習会でミュージザのスタッフさんとお会いしました。そのご縁が、今回の「触る模型」製作に繋がりました。2017年にはこの模型の前身となる「labo 模型」も試作しております。眼を閉じて“手で触った感触”を、是非、体感してみてください。

一般社団法人日本舞台美術家協会「触る模型」委員会委員長 大沢佐智子

#### 「触る模型」概要

素材：プラスチック板／MDF板／樹脂素材／木製パネル

寸法（台座を含む）：横 73cm × 奥行き 51.5cm × 高さ 29cm

重さ：25kg

縮尺：1/100

制作・コーディネート：

一般社団法人日本舞台美術家協会

製作：東宝舞台株式会社

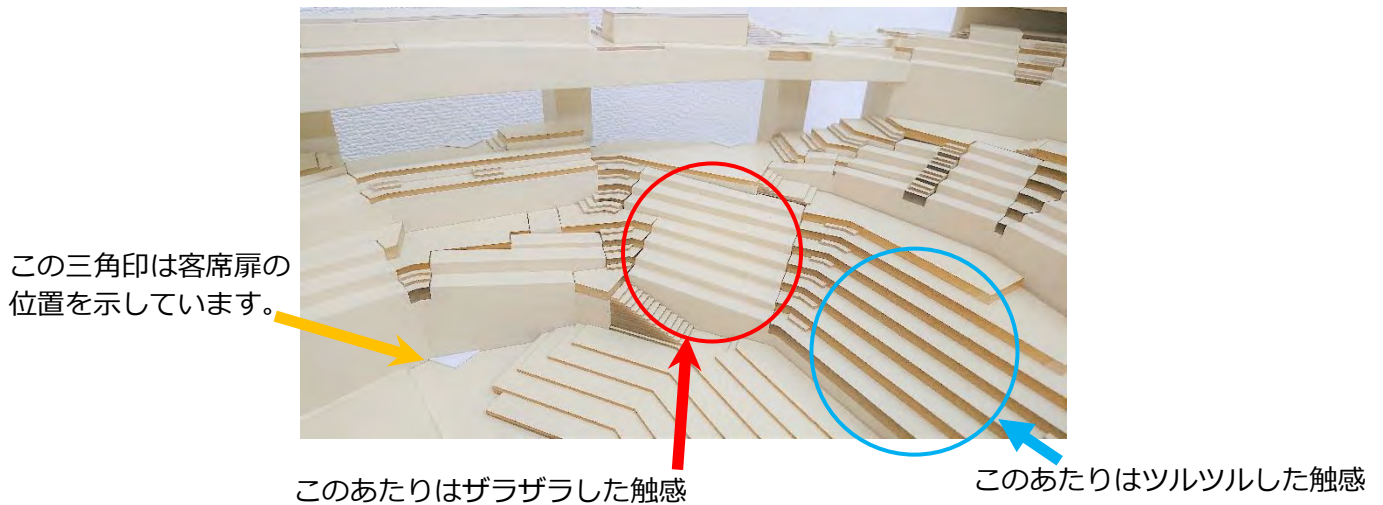
製作年：2020年3月



※模型の展示は公演開催日に限ります。

## 「触る模型」の特徴

(1) ミューザ川崎シンフォニーホールの特徴の一つである『スパイラル構造』を体感していただくため、ホール内のスロープになっている部分はザラザラした触感、平らな部分はツルツルした触感になっています。視覚障害のある方が指先で触感の違いを感じることで、ホール内がどのような形状になっているかを体感することができます。



「触る模型」は視覚障害のある方へホールの構造的な特徴を体感していただくためのツールとしているため、客席や手すりなどを精密に再現することを目的としたものではありません。視覚障害だけでなくその他の身体的・精神的な障害のある方には、ホールの形状や、ご自身の座席を大まかに把握するサポートができます。

(2) 「触る模型」の縮尺は、本物のおよそ 1/100 サイズ。無理なく手を上げられる大きさで、触りやすいことを重視した結果です。

(3) 触りやすいことを重視した特徴はもうひとつ。ホールの 1 階～3 階フロアが触りやすいように 4 階エリア (3LA～4LB、4C、3RB～3RA) は取り外せるようになっています。これによって、4 階エリアの下に一部もぐり込むようになっているエリアも触りやすくなりました。もちろん独立した 4 階エリアも触ることができます。

(4) ミューザ川崎シンフォニーホールのシンボルでもあるパイプオルガン。「触る模型」ではパイプオルガンも独立させ、パイプオルガンだけを取り出して触ることができるようになっています。



世界でひとつだけのミューザのオルガンの形状に触れることができます。本物のオルガンには触ることはできませんが、模型なら存分に触ることができますね。



### 「触る模型」に関するお問い合わせ

ミューザ川崎シンフォニーホール  
事業企画課 和田、山田  
TEL : 044-520-0100